



非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）の 使用上の注意が改訂されました

厚生労働省より2024年10月8日、全身作用が期待されるNSAIDsの投与に際して心筋梗塞及び脳血管障害に係る注意喚起が必要と判断され、各薬剤について使用上の注意の改訂が指示されました。
また、妊娠中期の妊婦に使用し胎児の動脈管収縮が起きたとの報告がある旨、及び本剤を投与する際には胎児の動脈管収縮が疑われる所見を適宜確認する旨の注意喚起が製薬会社に指示されました。

添付文書改訂の概要

全身作用が期待されるNSAIDsに対して、下記内容が追記されました。

項目	追記内容
重大な副作用	心筋梗塞、脳血管障害（いずれも頻度不明） 心筋梗塞、脳血管障害等の心血管系血栓塞栓性事象があらわれることがある。
特定の背景を有する患者に関する注意 （妊婦）	羊水量、胎児の動脈管収縮を疑う所見を妊娠週数や投与日数を考慮して適宜確認するなど慎重に投与すること。 シクロオキシゲナーゼ阻害剤（全身作用を期待する製剤）を妊娠中期の妊婦に使用し、胎児の動脈管収縮が起きたとの報告がある。

NSAIDs服用患者では、

- ・心筋梗塞及び脳血管障害の発症リスクが増加する
- ・副作用が疑われる症状があらわれた場合は服用を中止すること

妊婦へNSAIDsを使用する場合、

- ・リスクベネフィットを考慮の上、必要最小限にとどめること
- ・適宜、羊水量、胎児の動脈管収縮が疑われる所見を確認すること

添付文書改訂された薬剤一覧

薬品	心血管系リスク	胎児の動脈管収縮
アスピリン「ヨシダ」		○
イブプロフェン錠100mg「NIG」	○	○
インテバン坐剤25	○	
インフリーSカプセル200mg	○	
ジクトルテープ75mg	○	
ジクロフェナクNa錠25mg・坐剤12.5mg・25mg・50mg	○	
セレコキシブ錠100mg「VTRS」		○
セレコックス錠100mg・200mg		○
ソランタール錠100mg	○	
ナイキサン錠100mg	○	○
ハイペン錠100mg・200mg	○	○
パラミジンカプセル300mg	○	○
ブルフェン錠100	○	○
フロベン顆粒8%	○	○
ボルタレン錠25mg・SRカプセル37.5mg・サポ12.5mg・25mg・50mg	○	
ポンタールカプセル250mg	○	○
メロキシカム錠10mg「日医工」	○	○
モービック錠10mg	○	
ランツジールコーワ錠30mg	○	
レリフェン錠400mg	○	○
ロキソニン錠60mg・細粒10%	○	○
ロキソプロフェン錠60mg「EMEC」	○	○
ロルカム錠4mg	○	○
アドフィードパップ40mg 10×14cm		○
イドメシンコーワゲル1%・パップ70mg		○
インテバンクリーム1%・外用液1%		○
ケトプロフェンパップ30mg「三和」		○
セルタッチパップ70・140・テープ70		○
ナパゲルン軟膏3%・クリーム3%・ローション3%		○
フェルビナクスチック軟膏3%「三笠」・テープ35mg「三笠」		○
ボルタレンゲル1%・テープ15mg・30mg		○
モーラスパップXR120mg・240mg		○
モーラストープ20mg・L40mg		○
ヤクバンテープ20mg・40mg・60mg		○
ロキソニンゲル1%・パップ100mg・テープ50mg・100mg		○
ロキソプロフェンNaテープ50mg「科研」7×10cm		○
ロコアテープ10×14cm	○	○
ケトプロフェン筋注50mg「日新」	○	○
ロピオン静注50mg	○	○

不明な点につきましては、薬剤部・医薬品情報管理室(内線 7083)までご連絡下さい。

(文責：丹羽今日子)